

道の駅への期待

日本自動車連盟 (JAF) 会長
(元警察庁交通局長)

矢代隆義氏

道の駅が注目を浴びていますが、私も、時折、遠出したときなどに見つけては立ち寄ることがあります。休日にくつろぐと訪れる道の駅は地域の香りがあふれ、日常の雑多な仕事から開放してくれます。

日本人は1960年代、欧米にキャッチアップするためにひたすらに働き、高度経済成長期を経て、経済的豊かさでは世界をけん引する先進国の仲間入りを果たしました。経済成長が成熟期を迎えた現代の日本社会にとって、今最も求められているのが、内面の豊かさだと思えます。

道の駅は、地域の方々の創意工夫で運営され、道を行き交う人々に憩いの場を提供すると同時に、訪れる人と地元の人々の出会いの場となっています。このような相互の思いやりを持った地域施設が発展することで、人々の心の豊かさが高まるという気がします。

道の駅が発足して20有余年、

「ドライブが地方を元気にする」



道路の休憩施設として始まった道の駅は、時代の潮流にマッチしたこともあり、瞬く間に知名度が上がり、現在1107カ所と約10倍に増えました。その役割も、休憩機能、情報発信機能、地域の連携機能の基本機能に加え、防災、福祉、医療、住民サービス等ますます充実してきました。

道の駅が人々に受け入れられて、力強く発展してきたのは、地元住民の自由な発想が生かされる緩やかな制度に起因すると思います。この自由で闊達な発想を可能とする運営理念は、今後とも維持していただきたいものです。

日常生活だけでなく観光においても、車での移動はとても便利です。特に高齢者にとって、車に頼らざるを得ない状況はとても多いことでしょう。高齢化が進む我が国では、安全で快適なドライブツーリズムを提供する上で、道の駅の機能充実はとても重要だと思います。

我が国の課題である地方創生に向け、「ドライブが地方を元気にする」を合言葉に、道の駅同士が連携を深め、各分野の関係者と協力してドライブ旅行を推進するとともに、様々な地域活性化の施策が幅広く推進されることを期待します。